

はじめに

BladeSymphony SPは、オプション品である「BladeSymphony SP用管理サーバ」の有無により、セットアップ手順が異なります。お客様がお買い求めになられたシステム構成を下記<A><C>の3パターンから選択してください。以降、選択いただいた<A><C>マークの記載がある項目をセットアップしてください。

システム構成パターン	システム構成内容	システム構成図
A	BladeSymphony SP (本体)と同時に、オプション品の「BladeSymphony SP用管理サーバブレード HA8000/TS10」をご購入いただいた場合	
B	BladeSymphony SP (本体)と同時に、オプション品の「管理サーバブレード」をご購入いただいた場合	
C	BladeSymphony SP (本体)のみご購入頂いた場合 ※管理用PCまたはサーバが不要、またはお客様で管理用PCまたはサーバをご準備される場合	

…ご購入品 …お客様準備品

- セットアップの手順は下記の順番を必ず守ってください。手順を間違えますと、正しくセットアップできません。
- セットアップ作業開始前に製品添付のユーザーズガイド CD-ROMに格納されている「BladeSymphony SPユーザーズガイド」内の「安全にお使いいただくために」および「1章 お使いになる前に」を必ずお読みください。
- より詳細な内容については製品添付のユーザーズガイド CD-ROMに格納されている「BladeSymphony SP ユーザーズガイド」および「BladeSymphony SP ソフトウェアガイド」を参照ください。
- 本セットアップガイドは、Windowsインストール済のHDDレスサーバブレードをご購入されたお客様を対象としています。お客様ご自身で各HDDレスサーバブレードにWindowsをインストールされる場合は、製品添付のユーザーズガイドCD-ROMに格納されている「BladeSymphony SP ソフトウェアガイド」を参照し、インストールしてください。

登録商標・商標について

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-Vは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

版權について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。Copyright© Hitachi, Ltd. 2008. All rights reserved.

用語の説明

管理LAN：管理サーバと、マネジメントモジュール及びブレード管理コントローラ(BMC)をつなぎ、BladeSymphony SPの管理を行うLANです。お客様の業務用のLANとは別に設置されます。

JP1/SC/BSM：JP1/ServerConductor/Blade Server Managerの略です。

JP1/SC/Agent：JP1/ServerConductor/Agentの略です。

HDDレスサーバブレード：お客様の業務が稼働するサーバブレードです。

管理サーバ(ブレード)：JP1/SC/BSMが稼働しBladeSymphony SPを管理します。

BMC：HDDレスサーバブレードを管理するコントローラです。

Windows Server 2008 Standard/Enterprise：

Microsoft® Windows Server® 2008 Standard/Enterprise 日本語版の略です。

Windows Server 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V：

Microsoft® Windows Server® 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V™ 日本語版の略です。

Windows Server 2003 R2 Standard/Enterprise Edition：

Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard/Enterprise Edition 日本語版の略です。

Windows Server 2003, Standard/Enterprise Edition：

Microsoft® Windows Server® 2003, Standard/Enterprise Edition 日本語版の略です。

Windows Vista Business/Enterprise/Ultimate：

Microsoft® Windows Vista® Business/Enterprise/Ultimate 日本語版の略です。

Windows XP Professional/Home Edition：

Microsoft® Windows® XP Professional/Home Edition 日本語版の略です。

Windows 2000 Professional：

Microsoft® Windows® 2000 Professional 日本語版の略です。

Windows 2000 Server/Advanced Server：

Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server Operating System 日本語版です。

お客様にてご準備いただくもの

お客様にて下記機器をあらかじめご準備ください。

システム構成パターン	項目	員数	備考
A B C	電源設備	AC100V 5系統	コンセント形状は1章③「電源設備の確認」を参照ください。※iSCSIストレージを保守交換する場合は、さらにAC100V 2系統が必要になります。(交換装置とのデータ移行用)
	ブラスドライバ	1本	—
B C	PCまたはサーバ	1台	リモートコンソール用として使用します。次の「リモートコンソール用PCまたはサーバの動作条件」を満たすPCまたはサーバをご準備ください。 また、システム構成パターン<C>の場合は、管理用PCまたはサーバと共用できます。この場合は、<管理用PCまたはサーバの動作条件>も満たしてください。
	LANケーブル	1本	カテゴリ-5 以上の規格に対応したLANケーブルをご準備ください。

<リモートコンソール用PCまたはサーバの動作条件>

項目	動作条件
サポートOS	サーバ Windows Server 2008 Standard/Enterprise (32bit版) Windows Server 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V (32bit版) Windows Server 2003 R2 Standard/Enterprise Edition (32bit版) Windows Server 2003, Standard/Enterprise Edition (32bit版)
	PC Windows Vista Business (32bit版) Windows XP Professional/Home Edition (32bit版) Windows 2000 Professional
CPU	動作クロック1GHz 以上
メモリ	256MB 以上
表示解像度	1,024 x 768 ドット以上
ネットワーク	100Base-TX 以上
CD-ROM/DVD-ROMドライブ	PCまたはサーバ内蔵のCD-ROM/DVD-ROM または、USB 接続のCD-ROM/DVD-ROM USB 接続のCD-ROM/DVD-ROM はUSB2.0 準拠のドライブを推奨

<管理用PCまたはサーバの動作条件>

項目	動作条件
サポートOS	サーバ Windows Server 2008 Standard/Enterprise (32bit版および64bit版) *1 Windows Server 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V (32bit版および64bit版) *1
	PC Windows Vista Business/Enterprise/Ultimate*2 (32bit版) Windows XP Professional/Home Edition*3 (32bit版) Windows 2000 Professional *3
CPU	Pentium4 1GHz (2GHz以上推奨)
メモリ	512MB 以上
ハードディスク	1GB以上の空き容量
ネットワーク	管理LAN (1000Base-T/100Base-TX/10Base-T)に接続できること
CD-ROM/DVD-ROMドライブ	PCまたはサーバ内蔵のCD-ROM/DVD-ROM または、USB 接続のCD-ROM/DVD-ROM

*1 システム構成パターン<A> では、Windows Server 2008 Standardの32bit版のみ使用可能です。
*2 コンソールサービス、リモートコントロールビューアのみ利用可能です。
*3 JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plusはインストールできません。
JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plusをご使用になる場合には、サーバOSをご準備ください。
JP1/SC/BSMは使用可能です。

1 開梱および設置

BladeSymphony SPの開梱および設置時の注意

⚠ 温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると発煙、発火や感電の原因になります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。

⚠ 重量物の扱いについて

ラックキャビネットや周辺機器などの重量物を移動したり、持ち上げたりする場合は、無理をせず器具を使用したり、2人以上で注意して取り扱ってください。腕や腰を痛めたり、ラックキャビネットや周辺機器の転倒や故障の原因となります。

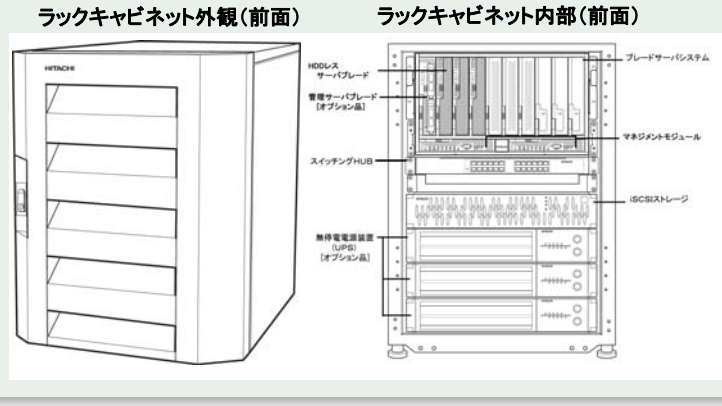
⚠ ラックキャビネットドアの開閉について

- ・フロントドア・リアドアを開めるときに指をはさまれないようにご注意ください。けがををするおそれがあります。
- ・ラックキャビネット内のケーブルをはさまないようにご注意ください。ケーブルの断線により、感電や装置の故障の原因となります。
- ・フロントドア・リアドアの開閉は静かに行ってください。強く行くと装置の故障の原因になります。
- ・フロントドア、リアドアは100度以上開けないでください。また、開閉方向以外に無理な力を加えないでください。特にフロントドア、リアドア上部より力を加えないでください。ドアやヒンジを破損するおそれがあります。
- ・ラックキャビネット内に搭載された装置を引き出した状態のままドアを閉めないでください。ラックキャビネットや装置の故障の原因となりますので、収納されていることをご確認のうえ、ドアを開めてください。

⚠ 設置環境について

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがををするおそれがあります。

BladeSymphony SPシステム装置外観



BladeSymphony SPの開梱および設置作業手順

① 同梱品の確認

- ・BladeSymphony SPに付属のダンボール箱を開梱し、「同梱品チェックリスト」ですべての添付品がそろっていること、各部品に損傷がないことをご確認ください。部品の不足や、何か問題がある場合は、お買い求め先にご連絡ください。

② BladeSymphony SPの設置

- ・製品添付の「BladeSymphony SP ユーザーズガイド」の「1章 お使いになる前に」「設置環境」を参照して設置場所の環境を確認し、BladeSymphony SPを設置してください。BladeSymphony SPの設置環境条件を次に示します。

項目	許容範囲
温度	5 ~ 35 °C [非動作時: 0 ~ 40 °C]
相対湿度	20 ~ 80% [非動作時: 10 ~ 90%] (結露のないこと)
振動	最大2.45m/s ² [非動作時: 9.80m/s ²]
埃	一般事務所程度

設置エリア

前面

背面

設置エリア

ラックキャビネット

300mm

300mm

500mm

500mm

1344mm

600mm

- ・保守作業を行う場合は、保守エリアとして前後1000mmのスペースが必要になります。
- ・ラックキャビネットの取り扱い方法については、「BladeSymphony SP ユーザーズガイド」の「2章 装置の使い方」ラックキャビネット」を参照ください。

③ 電源設備の確認

- ・システム装置が使用する電源設備を確認します。ただし電源接続は、2章「リモートコンソール用PCまたはサーバのセットアップ」を行った後、3章「電源の入れ方」で行います。ここでは電源設備の確認のみ行います。
- ・システム装置が必要とするコンセントプラグおよびコンセント仕様は次のとおりです。必ず仕様を満たすものをご使用ください。

電源仕様	コンセント形式・容量	プラグ	形状
AC100V (±10%) 50Hz/60Hz (±1%)	接地型 2 極差込コンセント 15A~125V		接地導線 (N:Neutral) 活性導線 (L:Line) 接地 (G:Ground)
		(JIS-C-8303)	(JIS-C-8303)

- ・電源設備側コンセントは、電気用品安全法取得のコンセントをご使用ください。
- ・コンセントは活性導線 (L:Line)、接地導線 (N:Neutral)、接地 (G:Ground) からなります。ご使用前に、接地が正しくされていることを確認してください。



2 リモートコンソール用PCまたはサーバのセットアップ

リモートコンソール用PCのセットアップ作業手順

① リモートコンソール用PCまたはサーバのIPアドレス設定

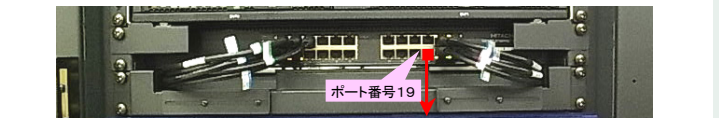
お客様準備のリモートコンソール用PCまたはサーバにIPアドレスを設定します。IPアドレスは、ブレードサーバシステム(マネジメントモジュール)の管理LANと同一セグメントアドレスを使用してください。

- … 補足 ブレードサーバシステム(マネジメントモジュール)の管理LANを確認する場合は、4章「ブレードサーバシステムの初期設定」の「③ 管理LANの設定内容の確認」を参照ください。

② LANケーブルの接続

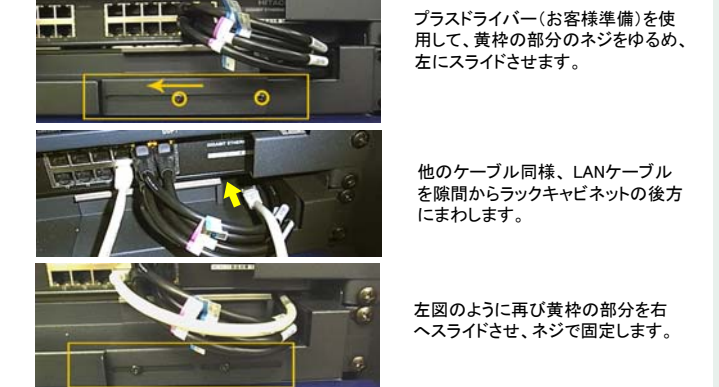
リモートコンソール用PCまたはサーバと、BladeSymphony SPの前面中段にある「スイッチングHUB」のポート番号19を、お客様準備のLANケーブルで接続します。

1. BladeSymphony SPのスイッチングHUBとLANケーブルの接続



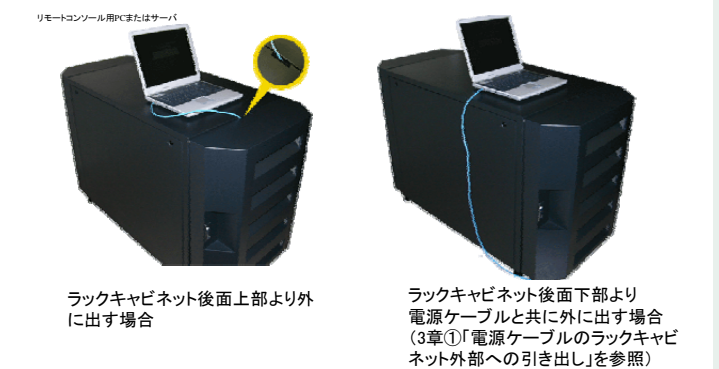
LANケーブル(お客様準備)をポート番号19に接続します。

2. ラックキャビネット外へのLANケーブルの引き出し



3. リモートコンソール用PCまたはサーバとLANケーブル接続

上記2でラックキャビネット後方にまわしたLANケーブルは、下記2種類のどちらかの方法でラックキャビネットの外に出し、リモートコンソール用PCまたはサーバと接続します。

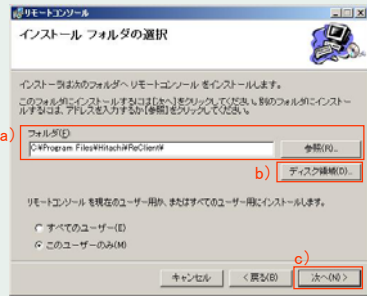


③ リモートコンソールアプリケーションのインストール

以下で説明するインストール作業は必ず管理者権限のあるユーザで行ってください。

- リモートコンソール用PCまたはサーバのCDドライブに、製品添付のリモートコンソールアプリケーションCD-ROMをセットします。リモートコンソールアプリケーションCD-ROM 内の「reclint_JP」フォルダを開き、「Setup.exe」をダブルクリックします。
- リモートコンソールのインストーラが起動し、「リモートコンソール セットアップ ウィザードへようこそ」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。「キャンセル」をクリックした場合は、下記「インストールを中止する場合」を参照ください。

4.右の画面が表示されます。



a) リモートコンソールアプリケーションのインストールフォルダを選択する場合は、選択フォルダ欄に直接入力、または[参照]をクリックします。[参照]をクリックすると「**フォルダの参照**」の画面が表示されます。インストール先フォルダを選択し[OK] をクリックします。

b) ディスクの容量を確認する場合は[ディスク領域] をクリックします。[ディスク領域] をクリックすると「**リモートコンソールディスク容量**」の画面が表示されます。確認できたら[OK] をクリックして画面を閉じます。

c) 上記の設定が完了したら[次へ]をクリックします。

4. 「**インストール確認**」の画面が表示されますので、インストールを開始する場合は[次へ] をクリックし、インストールを開始してください。[キャンセル] をクリックした場合は「インストールを中止する場合」をご覧ください。

5. 「**リモートコンソールをインストールしています**」の画面が表示され、インストールが開始されます。[キャンセル] をクリックした場合はインストールを中止する場合をご覧ください。

6. 「**インストールが完了しました。**」の画面が表示されましたらインストールは終了です。[閉じる] をクリックしてインストーラを終了してください。

7. インストールが終了すると、デスクトップ上にショートカットアイコンが表示されます。



インストールを中止する場合

インストールを中止する場合は、各画面の[キャンセル] または[×] をクリックします。[キャンセル] または[×] をクリックすると「**インストールは完了していません。終了してもよろしいですか?**」のメッセージが表示されます。インストールを中止する場合は[はい]、インストールを続行する場合は[いいえ] をクリックします。[はい] をクリックすると「インストールは中断されました」の画面が表示されます。[閉じる] または[×] をクリックしてインストーラを終了してください。

3

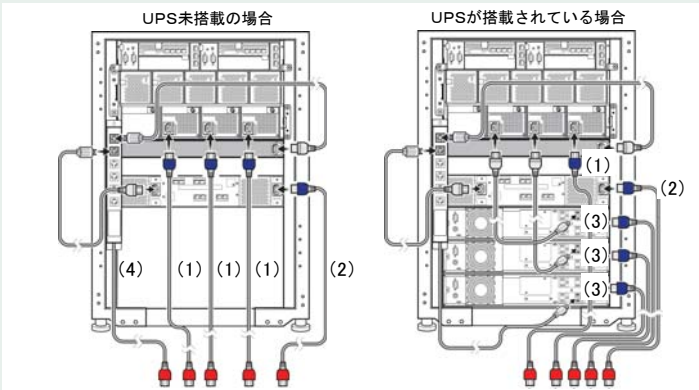
電源の入れ方

BladeSymphony SPの各機器で使用する電源ケーブルを下記に示します。

ケーブル番号	品名	ケーブルのイメージ画像	UPS未搭載の場合	UPSが搭載されている場合
(1)	ブレードサーバシステム用電源ケーブル		3本	1本
(2)	iSCSIストレージ用電源ケーブル (AC100Vを使用)		1本	1本
(3)	UPS用電源ケーブル			3本
(4)	コンセントボックス用電源ケーブル		1本	

補足

iSCSIストレージにはAC100V用電源ケーブルおよびAC200V用電源ケーブルの2種類が製品添付されていますので、必ずAC100V用電源ケーブルを使用してください。(AC200V用電源ケーブルは使用しません)



電源ケーブル接続時の注意

タコ足配線について
同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。ケーブルやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響をおよぼします。

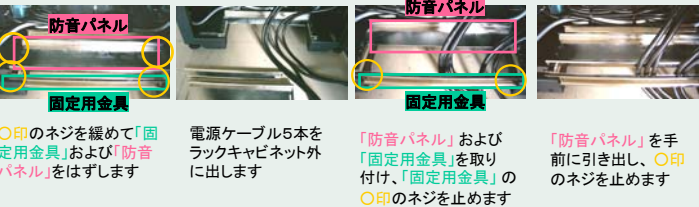
電源ケーブルを抜いた場合について
システム装置またはコンセントから電源ケーブルを抜いた場合、必ず10秒以上経過してから再接続してください。これを行わないと、システム装置が起動しないことがあります。

電源操作について
電源操作は決められた手順に従って行ってください。決められた手順に従わずに電源を入れたり切ったりすると、システム装置の故障の原因になります。

BladeSymphony SPの電源操作手順

① 電源ケーブルのラックキャビネット外部への引き出し

ラックキャビネットのリアドアを開け、下記のように電源ケーブルをラックキャビネット後面下部より外へ引き出します。



② コンセントへの接続

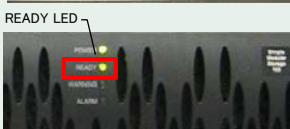
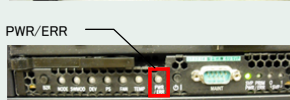
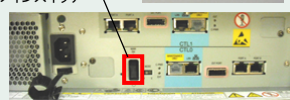
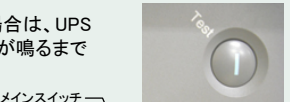
1. 上記①でラックキャビネット外に引き出した全ての電源ケーブルを1章③「電源設備の確認」で準備したコンセントに接続します。

2. BladeSymphony SPにUPSが搭載されている場合は、UPS (3台全て) の前面にある「Testボタン」をブザーが鳴るまで (2秒) 押し続けてください。

3. iSCSI ストレージ後面にある、メインスイッチを入れます。

4. 数分後、ブレードサーバシステムのマネージメントモジュール (前面から見て左側) のPWR/ERR ランプが、オレンジ色の点滅から点灯に変わったことを確認します。

5. iSCSI ストレージ前面のREADY LED が点灯しているのを確認します。



4

ブレードサーバシステムの初期設定

ブレードサーバシステム (マネジメントモジュール) の設定操作は、システム構成パターン <A> の場合 ... 管理・バックアップサーバ HA8000/TS10 システム構成パターン <C> の場合 ... リモートコンソール用PCまたはサーバより行います。上記のPCまたはサーバ上でInternet Explorerを起動し、ブレードサーバシステムのマネジメントモジュールにログインして各種設定を行います。このため、事前にInternet Explorerの設定を確認してください。設定が適切でない場合、マネジメントモジュールにログインできません。PCまたはサーバ上でInternet Explorerを起動し、「ツール」-「インターネットオプション」をクリックします。以下の設定を確認してください。

- ポップアップの禁止設定を解除してください。
※Internet Explorerの設定以外 (ブラウザ拡張ツールバー等) のプログラムでも、ポップアップの禁止設定を解除してください。
- Java スクリプトを有効にしてください。
- ブラウザはInternet Explorer 6以降をご使用ください。OSの条件は、「はじめに」の「リモートコンソール用PCまたはサーバの動作条件」と同じです。

ブレードサーバシステムの初期設定手順

① マネジメントモジュールへのログイン

- PCまたはサーバ上でInternet Explorerを起動します。
- アドレス欄に「http://< マネジメントモジュールのIP アドレス >」を入力し、[Enter] を押します。
(例) マネジメントモジュールのIP アドレスが 192.168.0.1 (デフォルト設定) の場合
- 接続に成功するとログイン画面が表示されます。何も入力せずに[ログイン]をクリックします。
- ログインに接続に成功するとマネジメントモジュールのメイン画面が表示されます。

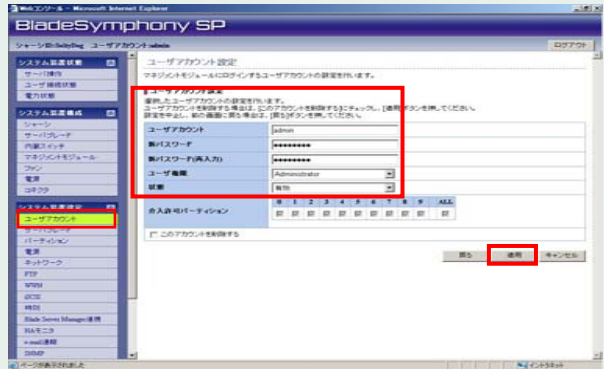
② ユーザアカウントの登録

マネジメントモジュールにログインするためのユーザアカウントを登録します。

- メニューから[ユーザアカウント] をクリックします。下記画面が表示されますので、[ユーザアカウント] 欄 1行目ラジオボタンをクリックし、[編集] をクリックします。



- 下記画面が表示されます。次の表を参考に必要事項を入力し、[適用] をクリックします。



項目	説明
ユーザアカウント	ユーザアカウント名称。半角英数字 (最大15 文字)
パスワード	パスワード。半角英数字 (最大15 文字)
パスワード (再入力)	パスワードの再入力。半角英数字 (最大15 文字)
ユーザ権限	ユーザアカウント権限。Administrator, Operator から選択
状態	ユーザアカウントの有効/無効。有効, 無効から選択
介入許可パーティション	パーティション (サーバブレード) 介入可否 チェック有: マネジメントモジュールから当該サーバブレードの操作・設定が可能 チェック無: 当該サーバブレードの操作・設定が不可
このアカウントを削除する	編集中のユーザを削除する場合チェックをつけます。
[適用] ボタン	設定内容確認画面へ遷移します。ただし、設定内容に不備がある場合は、不備のある項目が赤で表示され設定内容確認画面には遷移しません。
[キャンセル] ボタン	全入力項目を直前の設定値に戻します。
[戻る] ボタン	ユーザアカウント設定一覧画面に戻ります。

- 設定内容の確認画面が表示されます。
設定内容に問題がない場合は、[設定反映] ボタンを押してください。保存処理が行われ、ユーザアカウント設定画面に戻ります。設定値に問題がある場合は、問題がある項目が赤く表示されますので、該当箇所を修正してください。保存を中止したい場合は[キャンセル] ボタンを押してください。

③ 管理LANの設定内容の確認

ブレードサーバシステム (マネジメントモジュール) の管理ネットワークの設定内容確認や設定変更する場合は、マネジメントモジュールにログイン後、下記「ネットワーク設定」画面にて行います。

- メニューから[ネットワーク] をクリックします。「ネットワーク設定」画面が表示されます。



項目	説明
[最新の状態に更新] ボタン	設定情報の再読み込み
マネジメントモジュール IPアドレス	マネジメントモジュールのIPアドレス
マネジメントモジュール サブネットマスク	マネジメントモジュールのサブネットマスク
マネジメントモジュール デフォルトゲートウェイ	マネジメントモジュールのデフォルトゲートウェイ
サーバブレード 0~6 IPアドレス (サーバブレード7~9 IPアドレスは使用しません)	サーバブレード0~6の管理用IP アドレス 各ブレードサーバへのリモートコンソール接続用IPアドレスとして、5章①「サーバブレードへのリモートコンソール接続」で使用します。
[適用] ボタン	設定内容確認画面へ遷移します。ただし、設定内容に不備がある場合は、不備のある項目が赤で表示され設定内容確認画面には遷移しません。
[キャンセル] ボタン	全入力項目を直前の設定値に戻します。
一括入力開始 IP アドレス	サーバブレードの管理用IP アドレスを一括入力することができます。そのための最初の管理用IPアドレスを入力します。
[一括入力] ボタン	サーバブレードの管理用IP アドレスが未設定の場合のみ有効です。[一括入力開始IP アドレス]欄に管理用IP アドレスを入力した状態で[一括入力]ボタンを押すと、サーバブレードが搭載されている (サーバブレード0~6 IPアドレス) 欄に連続したアドレスを自動入力します。IP アドレスの妥当性のチェックは行いませんので、有効なIP アドレスが入力されたかを確認してください。

- 設定変更する場合は、各項目に入力し、[適用] ボタンをクリックします。設定確認画面が表示されますので、設定値に問題がなければ[設定反映] ボタンをクリックします。キャンセルする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

④ Blade Server Manager連携の設定内容の確認

マネジメントモジュールは、ブレードサーバシステムの各サーバブレードや各モジュールの稼動状態および障害情報を収集し、管理用PCまたはサーバにインストールしたJP1/SC/BSM (7章参照) に通知します。そこで、あらかじめマネジメントモジュールにJP1/SC/BSMと通信するための設定をします。本設定内容の確認や設定変更する場合は、マネジメントモジュールにログイン後、下記「Blade Server Manager連携設定」画面にて行います。

1. メニューから[Blade Server Manager連携] をクリックします。「Blade Server Manager連携設定」画面が表示されます。



項目	説明
[最新の状態で更新]ボタン	設定情報の再読み込み
サーバ名(1 ～ 4)	管理用PCまたはサーバのニックネーム 半角英数字、記号(最大15 文字)
IP アドレス(1 ～ 4)	管理用PCまたはサーバのIPアドレス
ポート番号(1 ～ 4)	アラートで使用するポート番号(デフォルト:20079) 半角数字(最大5 文字)
[適用]ボタン	設定内容確認画面へ遷移します。ただし、設定内容に不備がある場合は、不備のある項目が赤で表示され設定内容確認画面には遷移しません。
[キャンセル]ボタン	全入力項目を直前の設定値に戻します。
[削除する]チェックボックス	設定を削除する場合にチェックをつけます。設定の削除は設定番号の大きい設定から削除するようにしてください。
[推奨値入力]ボタン	Blade Server Manager連携設定の推奨値をフォームに入力します。デフォルトは下記の通りです。 ・サーバ名:BSM.1～4 ・ポート番号:20079

設定画面の「管理サーバ1」に対する設定のみ行ってください。

2.設定変更する場合は、各項目に入力し、[適用]ボタンをクリックします。設定確認画面が表示されますので、設定値に問題がなければ[設定反映]ボタンをクリックします。 キャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

③ マネジメントモジュールからのログアウト

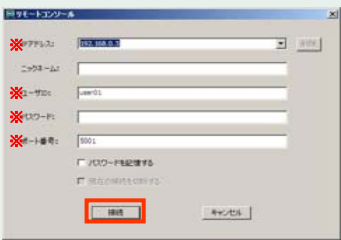
- 1.メイン画面右上の[ログアウト]をクリックします。
2.[はい]をクリックします。

サーバブレードのWindowsセットアップ手順

① サーバブレードへのリモートコンソール接続

1. PCまたはサーバのデスクトップ上にある「リモートコンソール」ショートカットアイコン(2章③参照)をダブルクリックします。
2.右の「リモートコンソール」画面が表示されます。リモートコンソール接続先の情報を入力し[接続] ボタンをクリックします。

※の項目は入力必須
工場出荷時のデフォルト値は下記の通り
IPアドレス :下記表参照
ユーザID :user01
パスワード:pass01
ポート番号 :5001



セキュリティの観点から、出荷時のパスワードからの変更をお勧め致します。変更方法は、マネジメントモジュールの「サーバブレード」のKVM設定画面から行ってください。詳細は「BladeSymphony SP ユーザーズガイド」を参照ください。

リモートコンソール接続先 サーバブレード	IPアドレス (リモートコンソール接続用 IPアドレス)
サーバブレード 0	サーバブレード 0 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 1	サーバブレード 1 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 2	サーバブレード 2 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 3	サーバブレード 3 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 4	サーバブレード 4 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 5	サーバブレード 5 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 6	サーバブレード 6 管理用IP アドレス *1

*1 4章③「管理LANの設定内容の確認」を参照

② サーバブレードの電源投入

- 1.[「Alt」+[G]キーを同時に押します。リモートコンソールツールバーが表示されます。[電源▼]をクリックし、[電源オン]をクリックします。[はい]をクリックすると、サーバブレードが起動します。



2. リモートコンソールツールバーの[リモート開始]をクリックします。ツールバーが消え、サーバブレードのコンソール操作(ディスプレイ・マウス・キーボード操作)ができます。

リモートコンソールツールバーの操作方法
[「Alt」+[G]キーを押すとツールバーの表示/非表示が切り替えられます。ツールバーが消えているときは、サーバブレードのコンソール操作ができます。ツールバーが表示されているときは、サーバブレードのコンソール操作ができません。
本ガイドで使用するツールバーの各ボタンについて説明します。これ以外については、製品添付の「リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド」を参照してください。

項目	説明
電源▼	電源オン リモートコンソール ログイン中のサーバブレードの電源を入れます。
	強制電源オフ リモートコンソール ログイン中のサーバブレードの電源を強制OFFします。
	リセット リモートコンソール ログイン中のサーバブレードのリセットします。
	NMI 障害時以外は使用しないでください。接続されているサーバブレードに対してNMIを実行し、強制的にメモリダンプを取得します。
C+A+D	リモート接続中のサーバブレード上で、[Ctrl] + [Alt] + [Del]キーを1回押した状態になります。
接続先切替	他のサーバブレードにリモートコンソールを切り替えます。
リモート開始	サーバブレードのリモート操作を開始します。
リモート終了	リモートコンソールアプリケーションを終了します。

③ 各サーバブレードのWindowsセットアップ

各サーバブレードのリモートコンソールにログインし、Windowsセットアップ作業を行ってください。

Windows Server 2008 (32bit版)編

■ HDDレスサーバブレード/管理サーバブレード(オプション品)共通

- これ以降、操作を間違えたときは、画面の[戻る]ボタンをクリックします。すると、一つ前の手順の画面に戻ります。該当する操作番号の操作手順に従って操作を進めてください。
- 1.リモートコンソールで、該当サーバブレードに接続します。
しばらくすると[ライセンス条項をお読みください]が表示されます。
- 2.内容を確認し問題なければ[ライセンス条項に同意します]をチェックし[次へ]ボタンをクリックします。
[ありがとうございます]と表示されます。
- 3.[開始]ボタンをクリックします。
[ユーザは最初にログオンする前にパスワードを変更しなければなりません]と表示されます。
- 4.[OK]ボタンをクリックし、[新しいパスワードおよびパスワードの確認入力]を入力します。
[SystemInstaller 構成マネージャ] が起動します。
- 5.[SystemInstaller 構成マネージャ] から必要となるコンポーネントをインストールします。[コンピュータ名とAdministrator のパスワード]が表示されます。詳細については、「ソフトウェアガイドの『SystemInstaller』によるセットアップ」をご参照ください。
- 6.使用する環境に合わせて設定を行います。
- 7.必要に応じて、残りパーティションを設定します。

Windows Server 2003 R2(32bit版)編

■ HDDレスサーバブレードの場合

- 1.サーバブレードの電源ON後、Windows Server 2003 R2 (32bit版)にログオンします。
[サーバの役割管理]、および[セットアップ後のセキュリティ更新]画面が表示されます。
- 2.使用する環境に合わせて設定を行います。

■ 管理サーバブレード(オプション品)の場合

- これ以降、操作を間違えたときは、画面の[戻る]ボタンをクリックします。すると、一つ前の手順の画面に戻ります。該当する操作番号の操作手順に従って操作を進めてください。
- 1.リモートコンソールで、該当サーバブレードに接続します。
しばらくして[Windows セットアップ ウィザードの開始]が表示されます。
- 2.[次へ]ボタンをクリックします。
[ライセンス契約]が表示されます。
- 3.内容を確認し問題なければ、[同意します]をチェックし[次へ]ボタンをクリックします。[ソフトウェアの個人用設定]が表示されます。
- これ以降の設定作業の途中で[セキュリティの警告ードライバのインストール]画面、または[ソフトウェアのインストール]画面、[ハードウェアのインストール]画面が表示される場合があります。[はい]ボタンを選択してインストールを続行してください。デフォルトでは[いいえ]ボタンが選択されているため、必ず[はい]を選択し直すよう注意してください。[いいえ]を選択すると、正しいドライバが適用されません。
- 4.[ソフトウェアの個人用設定]が表示されます。
入力後[Enter]キーを押します。
- 5.名前を入力します。必要に応じて組織名を入力します。
[次へ]ボタンをクリックします。
[コンピュータ名とAdministrator のパスワード]が表示されます。
- 6.コンピュータ名を入力します。必要に応じてAdministrator のパスワードを入力します。[次へ]ボタンをクリックします。
数分間設定が行われたあと、[ネットワークの設定]が表示されます。
コンピュータ名は、すでに入力されています。必要に応じて変更を行ってください。
コンピュータ名、Administrator のパスワードは初期設定完了後でも変更できます。
設定したパスワードを忘れてしまうと、次の立ち上げからWindows Server 2003 R2 (32bit版)にログオンできなくなります。その場合、Windows Server 2003 R2(32bit版)を再インストールする必要があります。
- 7.[ネットワークの設定]画面で[標準設定]か[カスタム設定]のどちらかをチェックして[次へ]ボタンをクリックします。
[標準設定]を選んだ場合は手順 9へ進みます。
- 8.[ネットワークコンポーネント]が表示されますので、必要となるコンポーネントをインストールし[次へ]ボタンをクリックします。
- 9.[ワークグループまたはドメイン名]が表示されます。使用するサーバ環境に合わせて選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
- 10.以降、インストール処理が行われます。
システム装置が立ち上げ直される。
- 11.システム装置立ち上げ後、Windows Server 2003 R2(32bit版)にログオンします。
- デスクトップが表示されるまで、「個人用設定」ダイアログが表示される場合があります。設定が終わるまでしばらくお待ちください。
- 12.[SystemInstaller 構成マネージャ]、[サーバの役割管理]、および[セットアップ後のセキュリティ更新]画面が表示されます。
- 13.使用する環境に合わせて設定します。
- 14.必要に応じて、残りパーティションを設定します。

全ての作業が完了しましたら、リモートコンソールアプリケーションを終了してください。

6 JP1/SC/Agentの設定

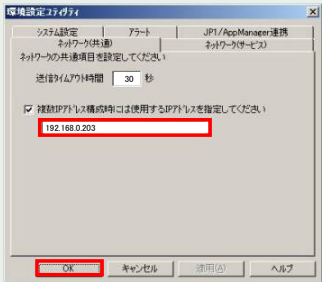
JP1/SC/Agentの設定

本ガイド以外のマニュアルあるいは実際の画面では「ブレードサーバシステム」を「サーバシャーシ」、あるいは「サーバブレード」を「サーバモジュール」と表記している場合がありますが、それは読み替えて下さい。

リモートコントロールアプリケーションを使用し、各サーバブレードのWindowsシステムにて以下の操作で出荷時にインストール済みのJP1/SC/Agentの設定を確認および変更をします。

以下で説明するインストール作業は必ず管理者権限のあるユーザで行ってください。

- 1.各サーバブレードWindowsで、[スタート]から、[すべてのプログラム(P)]ー[ServerConductor]ー[Server Manager]ー[環境設定ユーティリティ]を起動し、[エージェントサービス]タブの、[登録/削除]をクリックします。
- 2.[接続先マネージャサービス(IPアドレス/ホスト名)]に管理用PCまたはサーバのIPアドレスを入力し、[リストに追加]をクリックしてから[OK]をクリックします。
- 3.[エージェントサービス]タブの[詳細設定]をクリックします。
- 4.[複数IPアドレス構成時には使用するIPアドレスを指定してください]にチェック[レ]をつけます。
サーバブレードで管理LANに使用するIPアドレス(例では192.168.0.203)を入力します。
[OK]をクリックします。



- 5.[環境設定ユーティリティ]画面に戻りますので、[OK]をクリックします。

- 6.[サービスの再起動]画面が表示されますので、[OK]をクリックします。以上で、JP1/SC/Agentのセットアップは完了です。
7.その他のサーバブレードについても、JP1/SC/Agentをセットアップしてください。

7 JP1/SC/BSMのセットアップ

JP1/SC/BSMのセットアップ作業手順

本ガイド以外のマニュアルあるいは実際の画面では「ブレードサーバシステム」を「サーバシャーシ」、あるいは「サーバブレード」を「サーバモジュール」と表記している場合がありますが、それは読み替えて下さい。

① 用意するもの

サーバ管理ソフトウェア (JP1/ServerConductor/Blade Server Manager [JP1/SC/BSM]) のCD-ROM

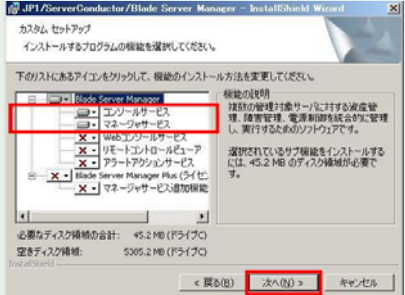
② Windowsファイアウォール有効時のOS設定変更

JP1/SC/BSMおよびJP1/SC/Agentの動作するWindows上でWindowsファイアウォールが有効になっていると、管理用PCまたはサーバと管理対象サーバ(サーバブレード)間の通信ができず、インストール設定に失敗します。ファイアウォールを有効にしている場合は、JP1/ServerConductorプログラムをファイアウォールの例外に登録をしてください。登録方法はJP1/SC/BSMマニュアル(3020-3-L52)の3.6.2節および各プロダクトのソフトウェア添付資料/リリースノートを参照ください。

③ JP1/SC/BSMのインストール

管理用PCまたはサーバに、JP1/SC/BSMのインストールCD-ROMをセットし、CD-ROM内の「¥Disk1¥setup.exe」を実行して、インストーラを起動します。以降は画面の指示に従ってインストールを進めてください。下記にインストール設定を進める上での注意事項を示します。

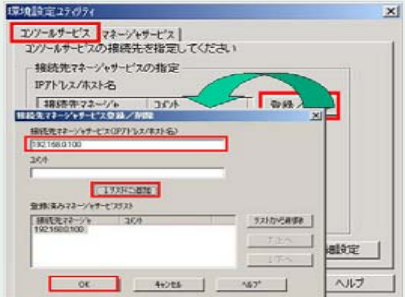
- 1.カスタムセットアップでのインストールするプログラム機能の選択
・管理用PCまたはサーバとしてインストールする場合は「コンソールサービス」「マネージャサービス」を選択します。



2.環境設定ユーティリティの設定

・[コンソールサービス]タブで

接続先マネージャサービス(管理サーバ)のIPアドレスを入力し、[リストに追加]ボタンを押下して、登録済みマネージャサービスリストの接続先マネージャに追加します。

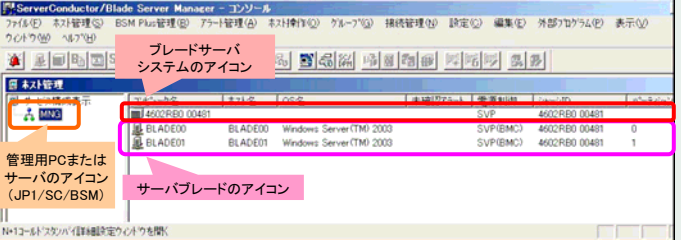


・[マネージャサービス]タブで
アドミニストレータのパスワードを設定します。

④ JP1/SC/BSMの起動

□ コンソールサービスの起動

- 1.管理用PCまたはサーバの[スタート]から[すべてのプログラム(P)]ー[ServerConductor]ー[Server Manager]ー[コンソールサービス]を起動します。
- 2.③～2で設定したアドミニストレータのパスワードを入力して次の画面に進みます。
- 3.[ServerConductor /Blade Server Manager —コンソール]画面(以下JP1/SC/BSMコンソール画面)が表示されます。[ホスト管理]ウィンドウには、管理用PCまたはサーバ(JP1/SC/BSM)、およびJP1/SC/BSMで管理できるブレードサーバシステム、サーバブレードが表示されます。



図のようにアイコンが表示される場合は、これで完了です。アイコンが表示されない場合は、次の手順にお進みください。

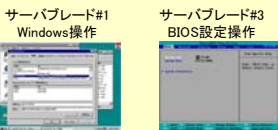
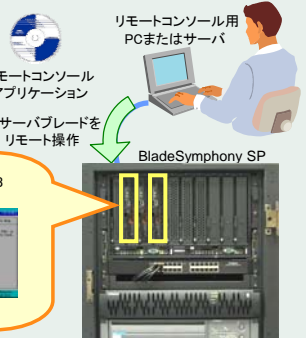
ブレードサーバシステムおよびサーバブレードのアイコンが濃い色で表示されている場合は、当該装置の電源がONであることを表します。また、アイコンが薄いグレー色で表示されている場合は、当該装置の電源がOFF、またはJP1/SC/BSMと通信できない状態であることを表します。

BladeSymphony SPは、各サーバブレードのコンソールとして「リモートコンソール」を使用します。リモートコンソールは、各サーバブレードのディスプレイ表示やキーボード/マウス操作、電源ON/OFF操作、BIOS設定、OSインストールなどを遠隔地から実行することができます。なお、リモートコンソールの詳細な操作方法については、製品添付のリモートコンソールアプリケーション CDに格納されている「リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド」を参照ください。

リモートコンソールは、描画速度が比較的低速です。サーバブレードのWindows起動後は、「リモートデスクトップ接続」等をご利用いただいた方が高速です。

<リモートコンソールの使用イメージ>

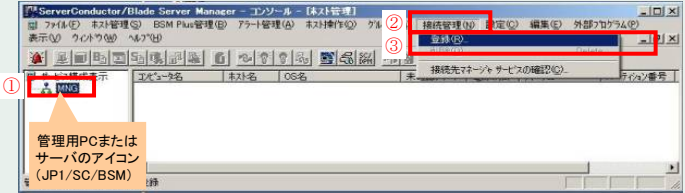
各サーバブレードのコンソール画面表示
キーボード/マウス操作
電源ON/OFF操作
OSインストールなどをリモートから操作可能



各サーバブレードのWindowsセットアップについて

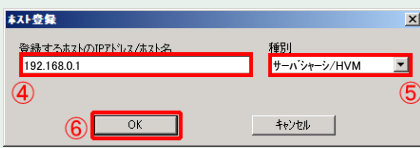
以下の手順は、工場でWindowsをインストールするサービスをご購入頂き、工場設定値を何もご指定いただいていない場合の、Windowsセットアップ手順を記載しています。お客様があらかじめ工場設定値をご指定いただいている場合は、以下の手順で表示されない、あるいは表示されても入力済みとなっているものがあります。また、OSなしサーバブレードをご購入され、お客様ご自身でWindowsをインストール、セットアップする場合は、製品添付の「BladeSymphony SP ソフトウェアガイド」の、「Windows Server 2008 のセットアップ」または、「Windows Server 2003 R2 (32ビット)のセットアップ」をご参照ください。

4. JP1/SC/BSMコンソール画面の[ホスト管理]ウィンドウに、**ブレードサーバシステム**のアイコンが表示されない場合は、以下の操作を行います。
- ① [ホスト管理]ウィンドウで、管理用PCまたはサーバのアイコンをクリックします。
 - ② [接続管理(N)]をクリックします
 - ③ [登録(R)]をクリックします。

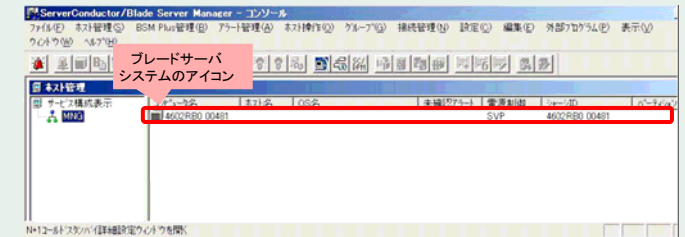


[ホスト登録]画面が表示されます。

- ④ [登録するホストのIPアドレス/ホスト名]欄に、ブレードサーバシステムのマネジメントモジュールのIPアドレス (例では192.168.0.1) を入力します。
- ⑤ [種別]から、[サーバシャーシ/HVM]を選択します。
- ⑥ [OK]をクリックします。



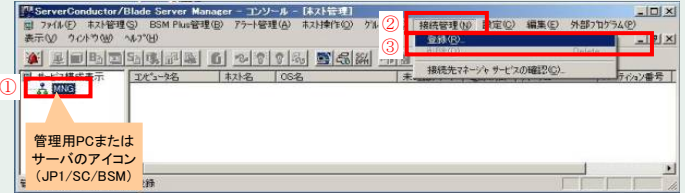
[ホスト管理]ウィンドウに、ブレードサーバシステムのアイコンが表示されます。



- …補足
- 本操作を行ってもブレードサーバシステムのアイコンが表示されない場合は、以下を確認してください。
- (a)管理用PCまたはサーバのコマンドプロンプトからブレードサーバシステムのマネジメントモジュールに対してPingコマンドを実行し、管理LANが正しく接続されているか確認してください。
 - (b)マネージメントモジュールのIPアドレスは、マネージメントモジュールの「Blade Server Manager連携設定」画面で確認してください。
 - (c)マネージメントモジュール側で、管理用PCまたはサーバが正しく登録されているか、「Blade Server Manager連携設定」画面で確認してください。

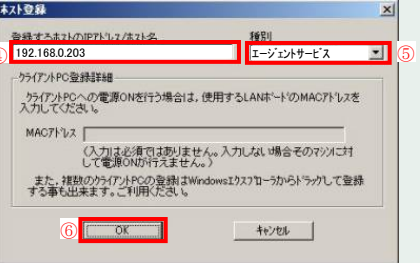
5. JP1/SC/BSMコンソール画面の[ホスト管理]ウィンドウに、**サーバブレード**のアイコンが表示されない場合は、以下の操作を行います。

- ① [ホスト管理]ウィンドウで、管理用PCまたはサーバのアイコンをクリックします。
- ② [接続管理(N)]をクリックします。
- ③ [登録(R)]をクリックします。

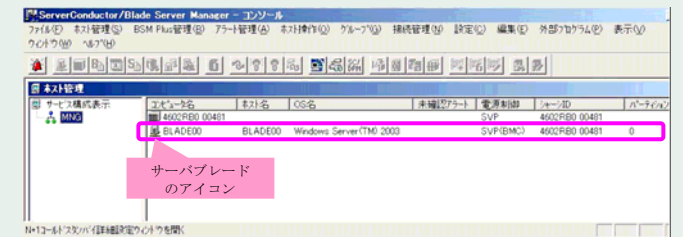


[ホスト登録]画面が表示されます。

- ④ [登録するホストのIPアドレス/ホスト名]欄に、アイコンを表示させたいサーバブレードのIPアドレス (例では192.168.0.203) を入力します。
- ⑤ [種別]から、[エージェントサービス]を選択します。
- ⑥ [OK]をクリックします。



[ホスト管理]ウィンドウに、サーバブレードのアイコンが表示されます。



これでセットアップは完了です。各機能の使い方は「JP1/SC/BSM管理者ガイド」をご参照ください。

- …補足
- サーバブレードのアイコンが表示されない場合は、以下を確認してください。
- (a)管理用PCまたはサーバの[環境設定ユーティリティ]にて設定を再度確認し、[OK]をクリックしてサービスを再起動してください。
 - (b)管理用PCまたはサーバのコマンドプロンプトから、サーバブレードのLAN1ポートに対してPingコマンドを実行し、管理LANが正しく接続されているか確認してください。
 - (c)サーバブレードを再起動してください。

8 電源の切り方

システム装置の電源切断手順

① 電源を切る

- 1.サーバブレードのシャットダウン
- サーバブレードのシャットダウンは以下のどちらかの方法で可能です。
- (a) リモートコンソールアプリケーションを使って、各サーバブレードにリモートログインし、Windowsをシャットダウンしてください。(シャットダウンの理由が[その他]の場合は、「説明」を記述する必要があります。)
 - (b) JP1/SC/BSMコンソールの[ホスト管理]ウィンドウでシャットダウンするコンピュータを選択して、右クリックのメニュー[電源OFF]を選ぶと確認画面が出ます。[OK]ボタンを押すとサーバブレードのシャットダウンを開始します。
- サーバブレードがシャットダウンすると、サーバブレード前面のPOWERランプがオレンジ色に点灯します。
- OSが正常に作動しなくなったときなど、サーバブレードのシャットダウン処理/パワーダウン処理ができないことがあります。この場合POWERボタンを4秒以上押し続けると、強制的に電源をOFFにすることができます。なお、強制的に電源を切った場合は、その後のOS・アプリケーションやデータが壊れる可能性があります。
- 2.iSCSIストレージのシャットダウン
- 各サーバブレードのシャットダウンが完了した事を確認した後、iSCSIストレージのREADY LED/WARNING LEDが高速点滅していないことを確認します。iSCSIストレージ背面のメインスイッチを押し電源をOFFにします。(低速点滅:1秒毎に点灯/消灯を繰り返し、高速点滅:低速以上に複数回点灯/消灯繰り返し)
- 3.ブレードサーバシステムのシャットダウン
- 各サーバブレードのシャットダウンして2分以上経過後、ブレードサーバシステムのマネージメントモジュールにログインします(4章①参照)。メニューから[シャーシ]をクリックし、「電源操作」の[シャットダウン]をクリックします。

4. UPSのシャットダウン
- UPSが搭載されている場合は、UPS (3台全て)の前面にある「停止ボタン」をブザーが鳴り終わる(約2秒)まで押してください。「AC Input (緑)」、「Bypass (赤)」の点灯を確認してください。
- その後、さらに「停止ボタン」をブザーが鳴り終わる(約2秒)まで押してください。この時、「Bypass (赤)」が消灯し「ACInput (緑)」が点灯しているのを確認してください。



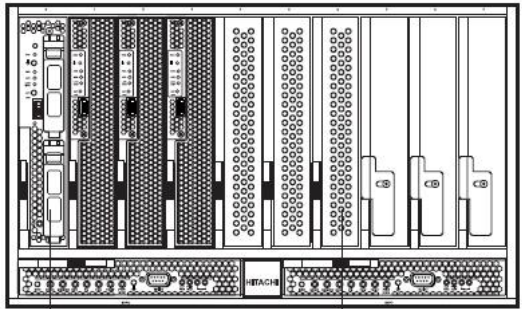
- 5.以上ですべての機器の電源をOFFにしました。必要に応じてラックキャビネット外に出ている電源ケーブル(5本)を抜いて電源の供給を切断してください。

- …補足
- サーバブレードをシャットダウンする際、マネジメントモジュールではサーバブレードをシャットダウンした後に状態変更の処理を行っています。このため、UPSによるBladeSymphony SPの電源の切断を行う場合には、全サーバブレードをシャットダウンした後、2分以上の時間をおいてからシステム装置の電源を切断してください。

プロダクトシール貼り付けページ

サーバブレードに添付されているプロダクトキーシールを、ブレードサーバシステムに搭載されているスロットNo. に該当する欄に貼り付けてください。

ブレードサーバシステムのスロットNo. は右図のとおりです。



スロット0	
スロット1	
スロット2	
スロット3	
スロット4	
スロット5	
スロット6	